

2022 年度 前期

単位互換開放科目

講義概要

SYLLABUS



仁愛女子短期大学

Jin-ai Women's College

2022 年度前期 仁愛女子短期大学 単位互換開放科目

	頁	授業科目名	開講形態	講・演・実	単位	受入 人数	授業時間
教養科目	1	人間と仏教 I	面接	講義	2	若干名	未定
生活科学学科 専門科目	3	衣生活論	遠隔	講義	2	若干名	未定
	5	住生活論	面接	講義	2	若干名	未定
	7	生活経営学	遠隔	講義	2	若干名	未定
幼児教育学科 専門科目	9	教育原理	遠隔	講義	2	若干名	未定
	11	教育課程総論	遠隔	講義	2	若干名	未定

【注意】

以降に掲載する講義概要（SYLLABUS）は、2021 年度開講用の内容です。

講義概要の内容および授業時間については変更の可能性もありますので、ご留意の上参考にしてください。

なお、不明な点は教務課にお問い合わせください。

I 限… 9:00～10:30

II 限…10:40～12:10

III 限…13:00～14:30

IV 限…14:40～16:10

V 限…16:20～17:50

講義科目名称： 人間と仏教 I

授業コード： 1410101 1410102 1410103
1610101

英文科目名称： Buddhism I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
香月 拓			
生活科学学科 教養科目		講義	ナンバリング：10A101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神「仁愛兼済」のこころを育て、自分の人生をいきいきと生きていく力を身に付けることである。そのため、釈尊の生涯や仏教における人間観を学ぶことを通して、「本当の自分とは何か」を尋ねていく。なお、授業は遠隔非同期（オンデマンド）にて実施する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①釈尊の生涯と思想について述べるができる。	生活DP1	20
	目標②自分の考えを読み手に伝わるようレポートにまとめることができる。	生活DP6	20
	目標③仏教における人間観をもとに「本当の自分とは何か」を考察し、述べるができる。	生活DP7	20
	目標④「仁愛兼済」を生きる学生像について、具体的に自分の考えを述べるができる。	生活DP8	10
	目標⑤仏教に照らし合わせて自分の考えや行動を省察できる。	生活DP9	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。(和敬) 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。(精進) 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	イントロダクションー仏教に何を学ぶのか	授業の取り組み方についての説明をする
	2	仏教とは何か	
	3	和の精神と仁愛兼済	
	4	仁愛学園の歴史とキャンパスのモニュメント	
	5	四思	事前に『和』p.1～15、p.40～45を読んでおくこと
	6	釈尊の生涯ー誕生、青色青光・各々安立	
	7	釈尊の生涯ー青年期の苦悩	
	8	釈尊の生涯ー出家～降魔	
	9	釈尊の生涯ー成道、自己への目覚め	
	10	釈尊の教え①	
	11	釈尊の教え②	
	12	釈尊の生涯ー涅槃、死もまたいのちのすがた	
	13	釈尊入滅後の仏教	
	14	親鸞の生涯	
	15	歎異抄	
定期試験	試験に代わって、全講義終了後にレポート課題を提出させる。		
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、講義で学んだことを通して「本当の自分とは何か」を思索するよう努めること。毎回、3時間程度の事前・事後学習を必要とする。		
教科書	使用しない		

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『仏教聖典』（仏教伝道協会，1996） 教材：適宜、プリント資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	成績評価を含め授業に関する質問等がある場合は、Moodleの質問コーナー等を利用すること。
評価の配点比率	目標①毎回の課題20% 目標②毎回の課題20% 目標③毎回の課題20% 目標④最終レポート10% 目標⑤毎回の課題20%、最終レポート10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	選択
担当教員			
前田 博子			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目 (学科共通科目)		講義	ナンバリング：14A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、衣服を着用することの意を哲学的視点から省察し、考える力を身につけることである。衣服文化からファッション産業と幅広く学び、社会が抱える問題についての解決策等を模索する。コーディネートや自身の衣服調査実践を交えて考察する。ものが溢れる世の中だからこそ、消費者としての考え方やその方法について暮らしの中で実践できることを深く考え、自ら学習する姿勢を養う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①衣服についての知識を身につける。	生活DP1	20
	目標②衣服環境についての知識を身につける。	生活DP2	20
	目標③衣服環境における問題の解決策を提示できる。	生活DP5	20
	目標④社会や文化の多様性を理解している。	生活DP9	20
目標⑤課題に対して主体的に行動する態度を身につけている。	生活DP8	20	
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。(精進) 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	マスクの作り方を探す	材料や道具を買わずに家にあるものを工夫してつくるための情報を探す。
	2	マスク制作	マスクの完成度によって評価される課題ではありません。前回調べたことを実践し、感じたことや考えたことをレポートにまとめる。マスク制作に必要な材料を集めておきましょう。
	3	ファッションコーディネート/マスクコーデの提案	レポートの提出
	4	調査/わたしの服①	衣服をアイテム毎に分類し自身の傾向を知る。レポート提出
	5	調査/わたしの服②	衣服の生産国調査を調査する。レポート提出
	6	本を読む/衣服への理解を深める	鷺田清一『ひとはなぜ服を着るのか』第一部「気になる身体 (p12-24)」
	7	ファストファッション①	レポート提出
	8	ファストファッション②	レポート提出
	9	TPOヘア&メイク	『ひとはなぜ服を着るのか』第一部「コスメティックー変身の技法 (p58-68)」 レポート提出
	10	服をつくる	服の作り方を調べる。つくった服と既製服を比べレポートにまとめる。 レポート提出
	11	ファッショントレンド春夏/資料作成	雑誌、画材道具、マスキングテープ等用意
	12	ファッショントレンド秋冬/資料作成	雑誌、画材道具、マスキングテープ等用意
	本を読む/モノと人、衣服との関わりについて知る	田中忠三郎『物には心がある。消えゆく生活道具と作り手の思いに魅せられた人生』麻の腰巻き、そして女性下着の研究 (p18-21)、パンツはくとカモ腐る	

	13		(p24-27)、暗く貧しい生活の中でも「女として美しくありたい」(p28-29)、佃伊裏が家族を作る(p56-59)、ドンジャの中、裸で眠る親と子(p82-85)、生命の布「ボド」―「座産」(p166-169)
	14	ファストファッション③	DVD鑑賞のため面接授業(日時については後日連絡)
	15	これからの衣生活について	レポート提出
定期試験	試験は実親しないが毎回のレポートや課題にて成績評価をおこなう。		
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事前・事後学習が必要。		
教科書	田中忠三郎著「物には心がある」 驚田清一著「ひとはなぜ服を着るのか」		
参考図書、教材、準備物等	適時指示する。		
課題(試験・レポート等)のフィードバック	レポートに関しては、LMS(仁短Moodle)を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。		
評価の配点比率	レポート及び課題100% 目標①レポート20% 目標②レポート20% 目標③レポート10%提出課題10% 目標④提出課題20% 目標⑤提出課題20%		
受講上の注意	洋服を着るということは毎日あたりまえに行うことです。だからこそ日常的にバランスのとれたコーディネートが必要となります。 日頃からファッションについての関心を深めるために「自分らしさ」を意識した洋服選びを心がけてください。 課題に必要な材料はB301に期間を決めて置いておきますので、各自持ち帰ってください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	選択
担当教員			
内山 秀樹			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目 (学科共通科目)		講義	ナンバリング：14A104
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、環境デザイン分野の住まいに関する導入が目的である。人間にとって最も基本的な生活空間であるとともに一生のうち最も多くの時間を過ごしている「住まい」について、「眠る」、「食べる」、「着る」、「入浴・排泄」などの生活行為の視点から”住まう”ことの意味と人と住まいの関係のあり方、望ましい住環境について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①人間とすまいの関係や環境と住文化について説明することができる。	生活DP9	20
	目標②生活行為と住空間のあり方について説明することができる。	生活DP1	40
	目標③自宅の間取りをわかりやすく描き、住環境の問題点を抽出することができる。	生活DP4	20
	目標④住環境の良否について適切に評価し、説明することができる。	生活DP5	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業ガイダンス/1 人と生活・住まい 1 人間とは	授業までに、授業内容に相当する箇所までテキストを予習しておくこと
	2	1 人と生活・住まい 2 集まって住む～3 環境と住まい 課題①「わが家の間取りチェック」の説明	課題①「わが家の間取りチェック」 自宅の間取りを簡単に描き、バリアフリーの観点からの問題点と住空間的に優れている点を整理する。
	3	2 生活行為と生活空間 A 眠る(1) 1 睡眠の生理～3 就寝様式	授業内容に相当する箇所までテキストを予習しておくこと
	4	A 眠る(2) 4 就寝空間の計画	授業内容に相当する箇所までテキストを予習しておくこと
	5	B 食べる(1) 1 食事について～3 食事の文化と変遷	授業内容に相当する箇所までテキストを予習しておくこと
	6	B 食べる(2) 4 食事の場、調理の場の計画～5 調理と環境問題	授業内容に相当する箇所までテキストを予習しておくこと
	7	受講生が課題①を発表し、それについて講評する。	課題①を説明できるように準備しておくこと
	8	D 排泄・入浴(1) 1 排泄する～4 水環境	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習しておくこと
	9	D 水回り空間(2) 5 現代の衛生空間～6 衛生空間の計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習しておくこと
	10	E ふれあう・くつろぐ(1) 1 今日のふれあいについて～3 今日のふれあい・くつろぎ空間	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習しておくこと
	11	良い住まいとは～優れた住まいの事例の動画等による解説	課題②レポート「住まいに関する動画をみて」 視聴した動画の概要と学んだこと、考えたことなどをレポートにまとめる。
12	E ふれあう・くつろぐ(2) 4 居間の計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習しておくこと 課題③についての説明を行う 住宅展場いき、関心を持った2物件について調査、ヒヤリングした内容をレポートにまとめる	

	13	F 子どもを育てる(1) 1 子供とは～3 子供と生活	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくること
	14	F 子どもを育てる(1) 4 子供と住まい～5 子供部屋の計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくること
	15	G 高齢者が住む・安らぐ 1 高齢者と高齢社会～4 高齢者の住まいの計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくること 課題③「住宅展示場見学レポート」提出締め切り
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。		
準備学習に必要な時間	毎回90分程度の事前事後学習が必要。		
教科書	林 知子他『住まい方から住空間をデザインする一図説住まいの計画』(彰国社 最新版)		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：小宮洋一、片山勢津子、他『新しい住まい学』(井上書院 2016)、定行 まり子・沖田富美子『生活と住居(光生館 2013)、水上裕、岩崎俊之、他『住まいのミカタ 暮らしに役立つ住居学』(学芸出版社 2009)、小 澤紀美子編『豊かな住生活を考える-住居学』(彰国社 2002)		
課題(試験・レポート等)のフィードバック	課題や試験は期末または採点が済み次第、各自に返却する。		
評価の配点比率	目標①期末試験20% 目標②期末試験40% 目標③「わが家の間取りチェック」20% 目標④「住まいに関するビデオをみて」10%、「住宅展示場見学レポート」10% 計20%		
受講上の注意	住まいのプランニングやインテリア関連分野を目指す方はもちろん、今後、生活者として不可欠の知識、理解を得ることができる基本的な内容であるため、受講することが望ましい。 机上には、授業に関係ない、かばん等を置くことを禁ずる。 私語が目立つ場合は座席指定とする。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学习支援(LMS等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位	選択
担当教員			
澤崎 敏文			
生活科学学科生活デザイン専攻 専門科目（学科共通科目）		講義	ナンバリング：11A501
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業の目的は、自立した消費者として、安心・安全で豊かな消費生活を営むことができる知識と技能を身につけることである。 私たちは、現在、自分以外の人が作ったモノ、あるいは自分以外の人が提供してくれるサービスを消費することなくして生活することはできない。よりよい消費は生活の質を確保する一つの手段である。しかしながら消費に関する問題は後をたたない。現代の消費の問題を把握するとともに、具体的な消費の問題を考えることを通じて消費のトラブルを未然に防止する方法を学ぶ。</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 私たちの生活の中での消費の意義や重要性を主体的に考えることができる。	生活DP8	10
	目標② 消費者として商品やサービスの選択と購入を誤りなく計画的に実行することができる。	生活DP5	30
	目標③ 現実の消費者問題を把握し、その問題の起きる背景を科学的に理解できる。	生活DP4	30
目標④ 問題の当事者になった際に、他に対して問題の内容を説明でき、制度的な手続きも含め、有効な対応策をとることができる。	生活DP2	30	
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進）	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、生活経営についての概論	社会生活における「経営」の考え方について議論します。
	2	ファイナンシャルプランニング1 (目標) ・金融の仕組み、預金と投資の違い等に関して基礎的な知識を習得します。 ・会社の仕組み、株式の仕組みなどについて基礎的な知識を習得します。 (内容) ・銀行の仕組み、会社・株式の仕組みについて ・日経平均などの指標について ・投資シミュレーションをしてみよう！	事前学習：日経新聞から事前に日経平均株価について調べておくこと 事後学習：株式のポートフォリオシミュレーションを提出すること (Moodle上)
	3	ファイナンシャルプランニング2 ・会社の仕組み、株式の仕組みなどについて基礎的な知識を習得します。 ・上場企業、非上場企業の違い、株式市場などについて基礎的な知識を習得します。 ・投資信託、分散投資などの基礎的な知識について。	・会社・株式の仕組みについて、上場企業・非上場企業のメリット、デメリット ・日経平均などの指標について、投資信託と分散投資の意味 ・日経225の会社から自分のポートフォリオを組み立て 事後課題：実際の日経225企業からポートフォリオを作成します。
	4	ファイナンシャルプランニング3 ・投資信託、分散投資などの基礎的な知識について知る。 ・前回作成したポートフォリオをグループごとに評価、発表してみます。	事前学習：前回作成したポートフォリオについて、発表できる資料等を準備すること。
	5	ファイナンシャルプランニング4 ・投資信託と分散投資について、実際の商品などを見比べてレビューします。	事前学習：証券会社のホームページ等で投資信託について事前に調査、理解してくること。

6	契約概論 ・契約の基本的な考え方 ・債権と債務の関係 ・民法の基本	事前学習：民法典（eGov：政府公式法律データベース）の構成について事前に調査、理解してくる。
7	契約概論2 ・民法に関する知識の復習（総則、債権） ・民法に関する知識（物権、家族法）	事前学習：民法典（eGov：政府公式法律データベース）の構成について事前に調査、理解してくる。
8	契約と消費生活 ・消費生活に必要な知識 ・クーリングオフ制度 ・製造物責任について（PL法と消費者保護） ・インターネット上での契約、スマホなどのアプリでの契約	演習：LINEなどのアプリの利用規約（契約書）を読んでみよう！ 事前学習：SNS等無料で利用しているアプリ等の法律関係がどうなっているか調査、理解してくる。
9	契約と消費生活2 ・ローンについて ・クレジットカードの仕組みと注意点 ・電子マネーの仕組み	事前課題：福井銀行、福邦銀行のホームページからローン等に関する内容を確認、金利等について調査、理解してくる。
10	金融関連、民法、消費生活に関するまとめのテスト	これまで学習した内容（1～9週）についての確認テストを実施します（選択式、記述式ともにMoodle上で行います。）
11	生活設計について考える1 ・10週目のまとめテストに関するフィードバック（振り返り） ・保険に関する基本的なお話	事前学習：保険に関する状況調査を実施してくる（Moodle上）
12	生活設計について考える2 ・第3週目に作成した株のポートフォリオを最新にして、分散投資のメリット、デメリット等についてグループで議論を行います。 ・最終課題となるライフプランプロジェクトの条件説明	【グループディスカッション】 グループに分かれて、ライフサイクルに合わせた生活設計について、プランを立てます。 次週までに、生活設計に関するレポートを提出、それらをもとに次週議論を行います。
13	生活設計について考える3 全国銀行協会のシミュレーターを利用して、グループごとに、自分たちが考える最適なライフプランを作成します。そのための準備を実施。	【グループディスカッション】 グループに分かれて、それぞれに議論した視点で、生活設計を行います。それらを、発表できる形でまとめてもらいます。次週までに、グループごとに発表形式（パワーポイントファイル）にまとめて、提出すること。
14	生活設計について考える4 全国銀行協会のシミュレーターを利用して、グループごとに、自分たちが考える最適なライフプランを作成します。そのための準備を実施。	【グループディスカッション】 発表のための根拠資料等の調査、発表資料作成を行います。
15	最終プレゼンテーション（グループ演習） 生活経営のまとめ	これまで学んだ知識の再確認 最終レポートについての準備を行います。
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、レポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	毎回、3時間程度の事前・事後学習が必要。毎回の授業主題に関係する参考図書や資料は事前に授業中に示すので、授業を受ける前に参照してくることが有用である。また授業中に必要な資料を配付するので、当該授業のノートを事後に整理する際にあわせて整理していくことが授業内容の習得のために重要である。	
教科書	使用しない。	
参考図書、教材、準備物等	資料：Moodle等を利用して必要な教材、資料は配布する予定。 参考図書：授業の中で紹介する。	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	本講義は、自分の生活に密着した事象を題材に講義を行うものなので、受講生には、新聞を読んだり、消費生活センターを訪ねたりするなど、積極的に自己学習を行うことを期待する。レポート等は、評価後にフィードバックする。	
評価の配点比率	目標① ミニテストや課題提出 10% 目標② ミニテストや課題提出 20%、最終レポート 10% 目標③ ミニテストや課題提出 20%、最終レポート 10% 目標④ ミニテストや課題提出 20%、最終レポート 10%	
受講上の注意	毎回、授業最初にミニテストを実施します。これらミニテストの実施も全て評価となります。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

講義科目名称： 教育原理

授業コード： 2111101

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
増田 翼			
幼児教育学科 専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A101
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、保育者として理解しておくべき教育の基礎理論のうち、とりわけ「教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わり」「教育の思想と歴史の変遷」「学校教育制度」「生涯学習社会における教育の現状と課題」「教育実践の基礎理論（内容・方法・計画・評価）」について修得することを目的とする。具体的には、そもそも「教育」とは何であるかを考えることから出発し、生涯学習社会で求められる学習方法、ユニークな教育実践の取り組み、教育の歴史と学校教育制度などについて順に学んでいく。各回において、教育に関する基礎的概念を身につけるとともに、現代日本の教育課題を様々な角度から捉えるための見方・枠組みを修得する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①「教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わり」「教育の思想と歴史の変遷」「学校教育制度」についてそれぞれ説明できる。	DP1	50
	目標②「生涯学習社会における教育の現状と課題」について説明できる。	DP3	10
	目標③「教育実践の基礎理論（内容・方法・計画・評価）」について説明できる。	DP5	10
	目標④ 自分の考えをレポートにまとめることができる。	DP6	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション：短期大学での学び方	【本講義15回すべてに共通する事項】 毎回、授業内容に関する小課題がある。授業毎に取り組み、LMS（仁短Moodle）に提出すること。 また、その日の授業内容に関する「事後学習プリント」を各回Moodle上でPDF配布するので、必ず目を通すこと。 ※併せて、各授業内では実習等で活用できる「手遊び」の紹介をしていきたい。一部の「手遊び」については、仁短YouTubeチャンネル動画「てあそびであそぼう」シリーズに収録されているので、あらかじめ視聴しておくことと良い（オープンな教育リソースの活用）。
	2	教育とは何か（1）：教育の意義と目的（教育基本法）	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	3	教育とは何か（2）：教育と子ども家庭福祉等との関わり（日本国憲法、学校教育法、児童福祉法）、乳幼児期の教育の特性	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	4	教育とは何か（3）：人間形成と文化、家庭の文化、園文化・学校文化、しつけと社会化	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	5	生涯学習社会における教育（1）：生涯学習とは、リカレント教育、Open University	事前に、「福井県生涯学習センター」「放送大学」のwebページを調べておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	6	生涯学習社会における教育（2）：成人期の学習、自己決定型学習	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	7	教育実践の多様な取り組み（1）：かつやま子どもの村小・中学校、教科カリキュラムと経験カリキュラム	事前に、「かつやま子どもの村小・中学校」のwebページを調べておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	。	教育実践の多様な取り組み（2）：森のようちえん、持続可能な開発のための教育（ESD）	事前に、「NPO法人 森のようちえん全国ネットワーク連盟」のwebページを調べておく。授業終了後に「事後

	0	学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	9	教育実践の多様な取り組み(3)：ICT活用教育、反転授業、アクティブ・ラーニング、ポートフォリオ、ルーブリック 授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	10	教育の思想と歴史の変遷(1)：コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ 授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	11	教育の思想と歴史の変遷(2)：近代教育制度の確立、デューイと児童中心主義 授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	12	教育の思想と歴史の変遷(3)：江戸時代までの教育 授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	13	教育の思想と歴史の変遷(4)：明治期における近代教育制度の成立、大正新教育運動、戦時下の教育 授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	14	学校教育制度：一条校、各国の学校体系 授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	15	まとめ：現代の教育課題 第15回終了後、授業内容に基づく最終レポートを作成し期限までに提出する。
定期試験	試験期間中の試験に代わって、全講義終了後に最終レポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	復習：学習した内容について、「事後学習プリント」などを参考にしながら整理しておく(毎回1時間程度)。 予習：次の授業内容について、指定されたwebページを読むなどして事前に理解を深めておく(毎回1時間程度)。 ※最終レポート作成には、多くの時間が必要となる。	
教科書	使用しない。適宜、資料を配布する。	
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』(文部科学省、フレーベル館、2018) 『保育所保育指針解説』(厚生労働省、フレーベル館、2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018)	
課題(試験・レポート等)のフィードバック	毎授業終了時に提出する小課題については、次回授業の冒頭でフィードバック(特徴的な意見の紹介、全体の傾向など)する。また最終レポートについては、授業担当者が添削し採点を付したPDFデータをMoodle上で返却することでフィードバックする。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール(masuda@jin-ai.ac.jp)の利用、研究室訪問(オフィスアワー)などの手段が可能である。	
評価の配点比率	目標①授業内小課題 30%、最終レポート 20% 目標②授業内小課題 10% 目標③授業内小課題 10% 目標④最終レポート 30%	
受講上の注意		
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
松川 恵子			
幼児教育学科 専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：21C101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、保育の基本について理解するとともに、全体的な計画（教育課程）と指導計画の関係や編成・作成方法を理解することである。幼児教育現場（幼稚園・保育所・認定こども園）の保育は、計画－実施－反省・評価－改善という循環を積み重ねることにより、保育の質を向上させている。この授業では、「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み進めながら、保育の基本について、全体的な計画（教育課程）と指導計画の意義やカリキュラム・マネジメントの重要性などについて学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をもとに乳幼児期の教育・保育についての基本的な考え方を説明することができる。	DP1	60
	目標② 全体的な計画（教育課程）及び指導計画の意義や役割、作成・編成の方法等について説明することができる。	DP5	20
	目標③計画－実施－反省・評価－改善の過程やカリキュラム・マネジメントの重要性について説明することができる。	DP5	10
	目標④部分指導案を作成することができる。	DP5	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	教育・保育をめぐる動向（保育所と幼稚園、認定こども園）	事前に、講義概要を読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
	2	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の成立・改訂の変遷並びにその社会的背景	事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
	3	乳幼児期の教育・保育の基本①（環境を通して行う教育・保育）	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
	4	乳幼児期の教育・保育の基本②（乳幼児期にふさわしい生活の展開）	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
	5	乳幼児期の教育・保育の基本③（遊びを通しての総合的な指導）	事前に「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
		乳幼児期の教育・保育の基本④（一人一人の発達の特性に応じた指導）	事前に「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。

6		事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
7	ねらい及び内容の考え方と領域の編成	<p>課題① 第1回～第6回の授業内容に関するレポート</p> <p>事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。</p> <p>事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。</p>
8	ねらい及び内容と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」及び幼稚園幼児指導要録（保育所児童保育要録）	<p>事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。</p> <p>事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。</p>
9	教育課程・全体的な計画の意義や役割	<p>事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。</p> <p>事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。</p>
10	教育課程・全体的な計画編成の方法（長期的な視野、乳幼児の発達過程、地域の実態）	<p>事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。</p> <p>事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。</p>
11	教育課程・全体的な計画と指導計画の関係	<p>事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。</p> <p>事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。</p>
12	指導計画の作成方法	<p>事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。</p> <p>事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。</p>
13	指導計画作成演習	課題② 附属幼稚園実習の指導案作成
14	指導計画作成から実施、反省・評価（保育士の自己評価）、改善の過程の循環による教育・保育の質の向上	<p>事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。</p> <p>事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。</p>
15	教育課程・全体的な計画の評価・改善とカリキュラム・マネジメント及び学校評価（保育所の自己評価）	<p>事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。</p> <p>事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。</p> <p>課題③ 第9回～第15回の授業内容に関するレポート</p>
定期試験	試験期間中に筆記試験を行います。	
準備学習に必要な時間	毎回、事前学習1時間程度、事後学習1時間程度が必要です。特に、附属幼稚園実習の指導案作成には多くの時間が必要です。	
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018） 小泉裕子編著『保育原理～世界の保育者と共に～』（東洋館出版 2017）	
参考図書、教材、準備物等	倉橋惣三『育ての心』（フレーベル館） 適宜、資料を配布します。	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題1・3は、授業の内容について自分の考えをまとめ、記入してください。後期「保育内容総論」の第1回目の授業でフィードバックします。 課題2については、添削し、実習前に返します。	
評価の配点比率	目標① 試験期間中の試験 30%、課題① 25%、ポートフォリオ 5% 目標② ポートフォリオ 10%、課題③ 10% 目標③ 課題③ 10% 目標④ 課題② 10%	
受講上の注意	授業で配布される資料はファイルに綴っておきましょう。授業終了後、ポートフォリオとしてまとめ、提出してもらいます。 提出物は期限を守りましょう。提出物の遅れについては減点します。	

教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、「計画(P)－実践(D)－評価(C)－改善(A)」の過程、教育課程(全体的な計画)と指導計画の関係性などについて、具体例を挙げながら授業を行うとともに、附属幼稚園実習の指導計画を作成できるよう指導を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)

お問い合わせ

仁愛女子短期大学

総合学務センター 学び支援課

〒910-0124 福井市天池町 43-1-1

TEL 0776-56-1133